

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

男女平等、日本再び118位

G7最下位、政治分野で後退

【ジュネーブ共同】スイスのシンクタンク、世界経済フォーラム（WEF）は12日、148カ国の男女平等度を順位付けした2025年版「男女格差（ジェンダー・ギャップ）報告」を発表し、日本は24年版と同じ118位だった。女性閣僚の減少が影響し、政治分野が後退。女性の管理職も少なかった。格差解消のペースは平均を下回り、遅れたままだ。先進7カ国（G7）では引き続き最下位。下から2番目のイタリアの85位にも引き離された。

男女格差報告の主な順位

| 2025年 | 24年 | ※WEF発表 |
|-------|-----|----------|
| 1 | 1 | アイスランド |
| 2 | 2 | フィンランド |
| 3 | 3 | ノルウェー |
| 4 | 14 | 英国 G7首位 |
| 5 | 4 | ニュージーランド |
| 42 | 43 | 米国 |
| 101 | 94 | 韓国 |
| 103 | 106 | 中国 |
| 118 | 118 | 日本 G7最下位 |



たなか・とろこ 1972年横浜生まれ、専門はメディア文化論。著書に「メディア文化とジェンダーの政治学」。

多様な社会実現を

東大大学院教授 田中東子氏

今年の日本の順位は前回と同じ118位で、指数が公表され始めた2006年以降、ほぼ横ばいだ。06年に日本と同じような状況だった国々は努力を続け、順位が上がっている。先進7カ国（G7）の中では日本だけが20年近く低水準のまま推移し、いかにジェンダー・ギャップを問題視してこなかったかが分かる。

世論調査などで選択的夫婦別姓制度への賛成が増えるなど、国民

一人一人の意識は変わってきている。変わらないのは政治や行政、マスコミだ。意思決定層に中高齢の男性が多く、同質性が高いことが、ギャップ解消への動きを阻んできたとみられる。今回の結果を真摯に受け止め、意識改革につなげてほしい。順位を上げた国々の施策や社会構造の変化を分析することも、その助けとなるはずだ。

男女格差が大きいということは、多様性の拒絶や差別にもつながる問題だ。性別や世代などにかかわらず、さまざまな人たちが参画し、人権的に尊重される社会をかたちづくるために、ジェンダーの視点から考えたい。

1 傍線部のように、日本がずっと低い順位にしている理由を説明した次の文の空欄に、本文中から適語を抜き出して入れましょう。

男女格差を

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

して

こなかったから。

2 なぜ日本は男女平等に向けて努力しないのかを説明した一文を、本文中から抜き出し、最初の3文字を書きましよう。

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

3 東アジア・太平洋地域で最も上位の国はどこがこの国が書きましよう。

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

4 男女格差が大きいと、どのような問題が起きてきますか。本文中から10字以内で抜き出しましょう。

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
| | | | | |

NIEワークシートのこたえ（2025年6月13日公開）

◆ワークシート「男女平等G7中最下位(社会)」 2025.6.13付 朝刊 3面 解答

- 1 問題視
- 2 意思決
- 3 ニュージーランド
- 4 多様性の拒絶や差別